

平成 27 年度「業務と歯科疾患関連並びに職場での歯科保健サービスの効果把握に関する研究」

研究結果の概要

A 研究目的

業務と歯科疾患との関わりについて把握を図るとともに、歯科保健サービスの普及があまり進んでいない職域における歯科保健サービスの提供を円滑かつ適切に行いながら、効果の実証的な把握を行っていくことが平成 27 年度における本研究の目的です。

このため、27 年度は、事業所での歯科保健サービスの提供を円滑に行うための e-learning 教材の制作並びに地域で実施されている歯科検診や歯科医療機関を受診する患者さんの疫学的分析を行うとともに、昨年度から実施している WEB 調査の解析並びに文献研究を引き続き行いました。

B 研究方法

1) e-learning 教材の制作について

成人歯科保健サービスにおける保健指導の内容を考慮し、産業保健や地域保健の現場で基礎疾患や栄養、歯科関係の保健指導に携わっている専門家と学識経験者による検討グループを設置し、今年度、4 回の委員会を開催して、

- 質問内容の選定
- フォローチャートの作成
- 保健情報コンテンツの作成
- 制作デザインの企画、教材開発

を行いました。

2) 歯科検診等による疫学的評価

長野県塩尻市で行われている特定健康診査の際、歯科検診を実施し、歯科保健状況と勤務状況について、解析を試みました。また、ライオン歯科衛生研究所東京クリニックの受診患者の方を対象に定期健診を受けている成人患者と主に治療を目的として来院した成人患者について、口腔内状況の比較を行いました。

3) 文献調査について

今年度は、

- 労働災害と顎顔面損傷及び歯科疾患との関係
- 勤労者のストレスと口腔内状況
- 音楽家での顎関節症
に関する文献等について、調査を行いました。

4) ウェブ調査の解析

昨年度に実施した WEB 調査の詳細な解析により、シフト勤務のある者の歯科疾患の状況並びに生活習慣や保健行動の比較分析を行うとともに、職業運転手とホワイトカラーについて、保健行動、生活習慣並びに歯の喪失との関連について、解析を試みました。

C 研究の成果

1) e-learning 教材について

質問内容を設定し、WEB 上で対応できるよう、以下のとおり、トップメニューとコンテンツを定め、試行版を製作しました

トップメニュー：

お口の健康ポケットパーク

コンテンツ

- ① 歯ブラシ選択
- ② 口の健康質問と健康年齢の算出
- ③ う蝕、歯周病のクイズ

④ 生活習慣等に対するワンポイントアドバイス

なお、歯科保健指導を行うにあたり、比較的現場でニーズのある歯ブラシ選択について内容を加えました。

<http://testnakaya2.net/opp/> (2016年5月20日時点)

2) 歯科検診等による疫学的評価

パートタイム労働者と長時間の勤務者の方の比較を行いましたところ、歯の喪失歯数や歯周治療必要度で有意な違いは見受けられませんでした。長時間の勤務者は、パートタイム労働者に比較して、歯石の沈着率が高く、口腔衛生状態について不良でした。

また、歯科診療所の調査で、定期健診患者46名と初診患者28名の比較を行ったところ処置歯、未処置歯、喪失歯の総数であるDMFTについて定期健診患者(14.3±5.4)が初診患者(11.7±7.1)よりも低い傾向を示し、う蝕リスク試験についても定期健診の患者の場合、う蝕関連菌である*s. mutans*の菌数などが低くなることが示されました。

3) 文献調査について

大学の歯科口腔外科の受診患者で顎顔面骨折による者のうち、労働災害によるものが文献上、5%から15%弱であることが示されました。また、現在、用いられている労災認定の障害等級の認定基準で、歯牙障害について、歯科補綴のみでなく、咬み合わせの状態や実際に咀嚼できる食品の状況を調査するなど、その他の指標を利用することを提言する文献がいくつか見受けられました。

さらに、産業歯科医研修会を受講した歯科医師に対する調査で、作業関連疾患として、歯科医療機関の受診患者では、歯牙破折が頻度として最も多く、その他、菓子屋う蝕や歯牙酸しょく症が続いていました。

4) ウェブ調査の解析

① シフト勤務の有無による会社員の保健状況の比較

夜勤を含むシフト勤務のある会社員の方の場合、シフト勤務のない方に比較して、喫煙者が多く、有意な差は示されないものの、糖尿病や高血圧、BMI25以上の者が高い傾向を示しました。また、口腔内状況については、現在歯数が少ない傾向を示し、歯周疾患に対する自覚症状を示す者が多く、反面、歯科保健行動の側面では、2回以上歯を磨く者が有意に少なく、歯科医院を受診したいときに受診する意識の違いも、見受けられました。

また、シフト勤務者の場合、未処置の歯が多い傾向が示されました。

② 職業運転手とホワイトカラーにおける歯の喪失リスクの比較

両者の職種比較をすると、職業運転手がホワイトカラーに比較して、世帯年収が低く、労働時間が長く、シフト勤務がある者が多く、職業期間が短い状況でした。

この両グループについて、歯の喪失経験に着目して現在歯数の状況を比較すると、職業運転手の場合、糖尿病がある者、喫煙経験のある者、朝食を毎日食べない者、朝食後の歯磨きをしない者が、歯が少ない者に多い傾向があり、ホワイトカラーの場合も、喫煙経験のある者で、現在歯数が少ない傾向が認められました。

D 結論

事業所での歯科保健サービスが円滑に普及できる環境を整備するため、e-learning教材を、試作しました。この教材では、従来、歯科保健指導で、あまり導入がなされていない歯ブラシ選択の内容を加えたことは、教材の内容に一定の独創性が得られていると考えました。

長時間勤務者の場合、パートタイム労働者に比較して歯石の付着が高く、口腔衛生状態が不良になることが示され、歯科医院の受療を含めいくつかの要因がかかわるものと考えられました。

また、定期的に予防処置を受けている成人の場合、歯科疾患の発病リスクの軽減が示唆されました。

ストレスと歯科疾患との関わりを示唆する文献が多く見受けられ、今後、職場のストレスと歯科疾患との関わりについて、調査する必要があるものと考えられました。

このほか、夜勤を含むシフト勤務の会社員の場合、未処置歯が多く、50代、60代の者で歯の喪失が見受けられるとともに、喫煙者が多く、歯科医院の受診ができない状況が示されました。

ここに示す知見から、就労者での歯科疾患のり患については、職業特性による差があるとともに、歯科医療機関での定期的な予防処置を受けることがリスクの軽減につながると考えられました。また、今後、事業所での歯科保健サービスを普及定着するためのe-learning教材については、今後の活用が望まれます。